



平成22年5月19日

各位

株式会社T&Dホールディングス  
 (コード番号 8795 東証・大証第一部)  
 太陽生命保険株式会社  
 大同生命保険株式会社  
 T&Dフィナンシャル生命保険株式会社

### 平成22年3月期決算(案)のお知らせ

T&D保険グループ(T&Dホールディングス、太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命)の平成22年3月期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の決算(案)につきまして、以下のとおりお知らせいたします。

#### 契約業績

- 生命保険会社3社合算の契約業績(個人保険・個人年金保険)は、  
 新契約高は、6兆3,299億円、前年から5.7%の増加、  
 解約失効高は、5兆1,124億円、前年から4.9%の減少、  
 保有契約高は、57兆7,000億円、前年度末から0.7%の減少となりました。

#### 損益関係(T&Dホールディングス連結)

- 経常収益は2兆3,489億円、前年から7.5%の減少、  
 うち、保険料等収入については、1兆8,983億円、前年から14.7%の増加となりました。
- 経常利益は、805億円、前年の損失から2,644億円の増加となりました。
- 当期純利益は、242億円、前年の純損失から1,133億円の増加となりました。

#### 株主配当

- 1株当たり年間配当金は、45円を予定しています。

以上

#### 【お問合せ先】

株式会社T&Dホールディングス	広報部	松尾	TEL 03-3434-9181
太陽生命保険株式会社	広報課	木村	TEL 03-3434-5257
大同生命保険株式会社	広報課	前田	TEL 03-3434-9190
T&Dフィナンシャル生命保険株式会社	広報課	稲生	TEL 03-3434-8840

[契約業績（個人保険・個人年金保険）]

（単位：億円）

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
新契約高	63,299	3,388 増 (5.7%増)	24,410	4,278 増 (21.3%増)	35,922	1,693 減 (4.5%減)	2,966	803 増 (37.2%増)
解約失効高 (解約失効率)	51,124	2,607 減 (4.9%減)	11,188 (6.45%)	1,267 減 (10.2%減) (0.80ポイント低下)	38,792 (10.04%)	1,131 減 (2.8%減) (0.03ポイント上昇)	1,144 (5.40%)	208 減 (15.4%減) (0.58ポイント低下)
保有契約高	577,000	3,971 減 (0.7%減)	181,190	7,638 増 (4.4%増)	372,913	13,305 減 (3.4%減)	22,895	1,695 増 (8.0%増)
新契約年換算保険料	2,632	1,290 増 (96.2%増)	385	54 増 (16.4%増)	1,696	1,099 増 (183.8%増)	550	137 増 (33.3%増)
うち医療保障・ 生前給付保障等	114	14 減 (11.1%減)	88	7 減 (8.1%減)	26	6 減 (19.7%減)	—	—
保有契約年換算保険料	15,341	1,215 増 (8.6%増)	6,018	112 減 (1.8%減)	7,492	843 増 (12.7%増)	1,831	484 増 (36.0%増)
うち医療保障・ 生前給付保障等	1,658	43 減 (2.6%減)	1,098	5 減 (0.5%減)	510	33 減 (6.1%減)	49	5 減 (9.4%減)

(注) 新契約高には転換による純増加高を含んでおります。

< 3社単純合算 >

- ・新契約高は、6兆3,299億円、前年から5.7%の増加。これは主に、太陽生命とT&Dフィナンシャル生命で新契約の販売が好調だったため。
- ・解約失効高は、5兆1,124億円、前年から4.9%の減少。これは、3社の解約が減少したため。
- ・保有契約高は、57兆7,000億円、前年度末から0.7%の減少。

○太陽生命

- ・新契約高は、2兆4,410億円、前年から21.3%の増加。  
これは主に、主力商品である「保険組曲Best」の販売が好調であったため。
- ・解約失効高は、1兆1,188億円、前年から10.2%の減少。  
解約失効率は、6.45%、前年から0.80ポイントの低下。
- ・保有契約高は、18兆1,190億円、前年度末から7,638億円、4.4%の増加。
- ・保有契約年換算保険料は、6,018億円、前年度末から1.8%の減少。

○大同生命

- ・新契約高は、3兆5,922億円、前年から4.5%の減少。  
・解約失効高は、3兆8,792億円、前年から2.8%の減少。  
解約失効率は、ほぼ前年並みの10.04%。
- ・保有契約高は、37兆2,913億円、前年度末から1兆3,305億円、3.4%の減少。
- ・保有契約年換算保険料は、7,492億円、前年度末から12.7%の増加。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・新契約高は、2,966億円、前年から37.2%の増加。  
これは主に、変額個人年金保険の販売が堅調に推移したため。
- ・解約失効高は、1,144億円、前年から15.4%の減少。  
解約失効率は、5.40%、前年から0.58ポイントの低下。
- ・保有契約高は、2兆2,895億円、前年度末から1,695億円、8.0%の増加。  
うち、変額個人年金保険の保有契約高は1兆135億円、前年度末から3,385億円、50.2%の増加。
- ・保有契約年換算保険料は、1,831億円、前年度末から36.0%の増加。

[損益関係]

(単位：億円)

	T&Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当連結会計年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
経常収益	23,489	1,909 減 (7.5%減)	9,246	1,875 減 (16.9%減)	11,781	723 減 (5.8%減)	4,260	1,407 増 (49.3%増)
うち保険料等収入	18,983	2,438 増 (14.7%増)	7,136	1,170 増 (19.6%増)	8,609	490 増 (6.0%増)	3,234	777 増 (31.6%増)
うち資産運用収益	3,757	315 減 (7.8%減)	1,668	658 減 (28.3%減)	1,184	538 減 (31.3%減)	925	639 増 (223.1%増)
うちその他経常収益	748	4,032 減 (84.3%減)	442	2,386 減 (84.4%減)	1,987	674 減 (25.3%減)	99	9 減 (8.3%減)
経常費用	22,683	4,553 減 (16.7%減)	8,798	2,960 減 (25.2%減)	11,290	2,147 減 (16.0%減)	4,403	1,281 増 (41.1%増)
うち保険金等支払金	17,368	774 減 (4.3%減)	7,066	970 減 (12.1%減)	9,489	247 増 (2.7%増)	811	52 減 (6.0%減)
うち資産運用費用	1,281	4,835 減 (79.1%減)	449	1,968 減 (81.4%減)	514	2,370 減 (82.2%減)	306	725 減 (70.3%減)
経常利益 (△損失)	805	2,644 増 (-)	448	1,084 増 (-)	491	1,424 増 (-)	△142	125 増 (46.7%増)
特別利益	13	859 減 (98.5%減)	9	532 減 (98.2%減)	0	326 減 (99.9%減)	0	0 増 (8,290.8%増)
特別損失	186	153 増 (464.0%増)	153	146 増 (2,127.2%増)	24	14 増 (132.4%増)	5	7 減 (59.5%減)
契約者配当準備金繰入額 (△戻入)	295	205 増 (229.0%増)	148	121 増 (439.7%増)	146	84 増 (135.3%増)	△0	0 増 (36.9%増)
税引前当期純利益 (△損失)	337	1,426 増 (-)	156	284 増 (-)	320	999 増 (-)	△147	133 増 (47.5%増)
法人税等合計	92	291 増 (-)	10	16 減 (60.0%減)	117	276 増 (-)	△43	38 増 (46.9%増)
当期純利益 (△損失)	242	1,133 増 (-)	145	301 増 (-)	202	723 増 (-)	△103	94 増 (47.7%増)
(参考) 資産運用関係収支 (一般勘定)	1,529	2,402 増 (-)	1,211	1,291 増 (-)	617	1,644 増 (-)	△267	547 減 (-)

(注) 1. T&Dホールディングス連結の数値については、生命保険会社3社の単純合算とは必ずしも一致いたしません。  
 2. 保険料等収入の3社単純合算は1兆8,980億円(前年比14.7%増)であります。  
 3. 資産運用関係収支(一般勘定)は、一般勘定に関する資産運用収益から一般勘定に関する資産運用費用を差し引いたものです。

<T&Dホールディングス連結>

- ・ 経常収益は、2兆3,489億円、前年から1,909億円の減少。これは主に、3社の保険料等収入が増加したものの、利息及び配当金等収入や有価証券売却益などの資産運用収益やその他経常収益の責任準備金戻入額が減少したため。
- ・ 経常利益は、805億円、前年の損失から2,644億円の増加。これは主に、一般勘定資産運用収支が増加したため。
- ・ 当期純利益は、242億円、前年の純損失から1,133億円の増加。

○太陽生命

- ・ 保険料等収入は、7,136億円、前年から19.6%の増加。  
これは主に、個人保険・団体年金保険の保険料が増加したため。  
うち、個人保険の保険料は、「保険組曲Best」の販売が好調であったことから、4,276億円、前年から8.8%の増加。
- ・ 保険金等支払金は、7,066億円、前年から12.1%の減少。  
これは主に、団体年金保険のシェア変更に伴う支払金が減少したため。
- ・ 資産運用関係収支(一般勘定)は、1,211億円、前年から1,291億円の増加。  
これは主に、有価証券売却損・評価損が大幅に減少したため。
- ・ 経常利益は、448億円、前年の損失から1,084億円の増加。
- ・ 特別損失は、153億円。これは主に、価格変動準備金を140億円繰入したため。
- ・ 当期純利益は、145億円、前年の純損失から301億円の増加。

## ○大同生命

- ・保険料等収入は、8,609億円、前年から6.0%の増加。  
これは主に、個人年金保険の一時払保険料が増加したため。
- ・保険金等支払金は、9,489億円、前年から2.7%の増加。  
これは主に、団体年金保険の支払金が増加したため。
- ・資産運用関係収支（一般勘定）は、617億円、前年のマイナスから1,644億円の増加。  
これは主に、有価証券売却損・評価損およびその他運用費用が減少したため。
- ・経常利益は、491億円、前年の損失から1,424億円の増加。
- ・当期純利益は、202億円、前年の純損失から723億円の増加。

## ○T&Dフィナンシャル生命

- ・保険料等収入は、3,234億円、前年から31.6%の増加。  
これは主に、変額個人年金保険の新契約が増加したため。
- ・保険金等支払金は、811億円、前年から6.0%の減少。
- ・資産運用関係収支（一般勘定）は、△267億円、前年から547億円の減少。  
これは主に、相場変動に伴い変額個人年金保険の最低保証リスクに係るヘッジ損益（金銭の信託運用損益）が前年の運用益から運用損となったため。
- ・経常利益（△損失）は、△142億円、前年から125億円の改善。  
これは主に、相場回復に伴い変額個人年金保険の最低保証リスクに係る責任準備金が前年の繰入から戻入となったため。
- ・当期純利益（△損失）は、△103億円、前年から94億円の改善。

[その他の指標等]

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
基礎利益	1,310	1,581 増 (-)	509	59 増 (13.2%増)	586	899 増 (-)	214	622 増 (-)
逆ざや額	577	960 減	126	76 減	416	881 減	34	1 減

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減
ソルベンシー・マージン比率			1,023.8%	157.4ポイント上昇	1,120.6%	299.9ポイント上昇	646.0%	190.8ポイント低下
実質純資産	11,347	2,709 増	4,337	1,033 増	6,104	1,642 増	905	33 増
有価証券差損益(一般勘定)	2,289	2,543 増	1,247	1,005 増	1,011	1,537 増	30	0 増
うち公社債	803	318 増	394	9 増	379	309 増	29	0 減
うち株式	1,488	1,042 増	928	841 増	560	200 増	-	-
うち外国証券	△114	303 増	△91	141 増	△23	161 増	-	-
うちその他の証券	94	863 増	3	4 増	90	858 増	1	1 増
うち金銭の信託	2	2 増	-	-	2	2 増	-	-
土地等の差損益	288	238 減	85	137 減	202	101 減	-	-

- (注) 1. 有価証券差損益については、有価証券のうち時価のあるものを記載しております。  
 2. 土地等の差損益については、原則として鑑定評価額(重要性の低い物件等については公示価格)をもとに算出しております。  
 3. T&D保険グループのヨーロッパ・エンベディッド・バリュー(EEV)は、1兆3,749億円(前年度末比5,084億円増)となりました。なお、太陽生命は4,757億円(同1,798億円増)、大同生命は8,184億円(同2,109億円増)、T&Dフィナンシャル生命は808億円(同150億円増)となりました。  
 詳しくは、「平成22年3月末ヨーロッパ・エンベディッド・バリューの開示について」をご参照ください。

<3社単純合算>

- ・基礎利益は、1,310億円、前年から1,581億円の増加。これは主に、大同生命の運用収支の改善と、T&Dフィナンシャル生命で相場回復に伴い変額個人年金保険の最低保証リスクに係る責任準備金が戻入となったため。
- ・実質純資産は、1兆1,347億円、前年度末から2,709億円の増加。  
有価証券差損益は、2,289億円、前年度末から2,543億円の増加。  
実質純資産および有価証券差損益の増加は主に、株式やその他の証券の差損益が増加したため。

○太陽生命

- ・基礎利益は、509億円、前年から59億円の増加。
- ・逆ざや額は、126億円、前年から76億円の減少。  
これは主に、基礎利益上の運用収支が増加したこと、ならびに予定利息負担が減少したため。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、1,023.8%、前年度末から157.4ポイントの上昇。
- ・実質純資産は、4,337億円、前年度末から1,033億円の増加。
- ・有価証券差損益は、1,247億円、前年度末から1,005億円の増加。  
実質純資産および有価証券差損益の増加は主に、株価の上昇に伴い株式の評価差損益が増加したため。

○大同生命

- ・基礎利益は、586億円、前年から899億円の増加。  
逆ざや額は、416億円、前年から881億円の減少。  
これらは主に、前年多額に発生した投資信託の解約に伴うその他運用費用が減少したため。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、1,120.6%、前年度末から299.9ポイントの上昇。  
実質純資産は、6,104億円、前年度末から1,642億円の増加。  
これらは主に、有価証券差損益が増加したため。
- ・有価証券差損益は、1,011億円、前年度末から1,537億円の増加。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・基礎利益は、214億円、前年から622億円の増加。  
これは主に、相場回復に伴い、変額個人年金保険の最低保証リスクに係る責任準備金が戻入となったため。
- ・逆ざや額は、前年並みの34億円。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、646.0%、前年度末から190.8ポイントの低下。  
これは主に、変額個人年金保険の新契約獲得に伴い、最低保証リスク相当額が増加したため。
- ・実質純資産は、905億円、前年度末から33億円の増加。
- ・有価証券差損益は、前年並みの30億円。

[平成23年3月期通期業績予想]

○T&Dホールディングス連結

平成23年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

(単位：億円)

	平成22年3月期実績	平成23年3月期予想	増減
経常収益	23,489	20,300	3,189 減 13.6%減
経常利益	805	1,030	224 増 27.8%増
当期純利益	242	330	87 増 35.8%増

1株当たり年間配当金予想は45円です。

なお、上記の前提となる生命保険会社3社(単体)の平成23年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

(単位：億円)

	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
経常収益	8,600 (646 減) (7.0%減)	10,400 (1,381 減) (11.7%減)	3,300 (960 減) (22.5%減)
経常利益(△損失)	490 (41 増) (9.3%増)	530 (38 増) (7.8%増)	△30 (112 増) (79.0%減)
当期純利益(△損失)	150 (4 増) (3.3%増)	180 (22 減) (11.3%減)	△20 (83 増) (80.7%減)

(注) 括弧内は平成22年3月期からの増減額・率です。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記業績予想と大きく異なることがあります。

以 上

(参考) 生命保険会社3社の平成23年3月期通期見通し

(単位：億円)

	3社合算	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
基礎利益	1,250 (60 減) (4.6%減)	550 (40 増) (7.9%増)	590 (3 増) (0.6%増)	110 (104 減) (48.7%減)
保険料等収入	17,600 (1,380 減) (7.3%減)	7,200 (63 増) (0.9%増)	7,300 (1,309 減) (15.2%減)	3,100 (134 減) (4.2%減)
逆ざや額	380 (197 減) (34.2%減)	70 (56 減) (44.4%減)	280 (136 減) (32.8%減)	30 (4 減) (13.5%減)
新契約高	64,700 (1,400 増) (2.2%増)	25,400 (989 増) (4.1%増)	36,000 (77 増) (0.2%増)	3,300 (333 増) (11.2%増)
保有契約高	573,400 (3,600 減) (0.6%減)	190,000 (8,809 増) (4.9%増)	359,700 (13,213 減) (3.5%減)	23,700 (804 増) (3.5%増)
解約失効率 (%)		6.9 (0.5 ポイント上昇)	10.3 (0.3 ポイント上昇)	4.7 (0.7 ポイント低下)

(注) 1. 括弧内は平成22年3月期からの増減額・率です。

2. 新契約高、保有契約高および解約失効率は、個人保険と個人年金保険の合計です。  
また、新契約高には転換による純増加高を含みます。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記見通しと大きく異なることがあります。

## (参考) 契約者配当

### ○太陽生命

#### ①個人保険・個人年金保険

- ・毎年お支払いする通常の配当金

利差配当・・・前年度配当率を据え置きます。

予定利率2%以下

1.95%－予定利率

予定利率2%超、4%以下

1.75%－予定利率

予定利率4%超

1.55%－予定利率

死差配当・・・前年度配当率を据え置きます。

費差配当・・・前年度配当率を据え置きます。

災害疾病関係特約等に対する配当・・・前年度配当率を据え置きます。

- ・消滅時などにお支払いする特別配当金

前年度に引き続き実施します。

消滅時配当（責任準備金比例）

- ・・・前年度配当率を据え置きます。

責任準備金に対して（〔 〕内は経過年数を表します）

予定利率が4.0%以下の契約

満期・死亡の場合 2%〔42年〕～14.0%〔47年〕

解約の場合 2%〔44年〕～9.2%〔同上〕

予定利率が4.0%超の契約

満期・死亡の場合 2%〔43年〕～11.6%〔同上〕

解約の場合 2%〔45年〕～6.8%〔同上〕

消滅時配当（保険料比例）

- ・・・前年度配当率を据え置きます。

死亡部分の年間営業保険料に対して（〔 〕内は経過年数を表します）

16%〔14年〕～361.6%〔32年〕

疾病健康配当

- ・・・前年度より引き上げます。

10年以上経過して消滅かつ給付金支払のない疾病保障特約等について

入院給付金日額1,000円につき1,800円

（前年度：入院給付金日額1,000円につき1,500円）

#### ②団体保険

- ・前年度配当率を据え置きます。

#### ③団体年金保険

- ・利差配当・・・前年度より引き上げます。

予定利率1.00%

0.50%（前年度：0.40%）

企業年金保険・新企業年金保険・厚生年金基金保険・

国民年金基金保険・団体生存保険および新団体生存保険

予定利率1.25%

0.50%（前年度：0.40%）

確定給付企業年金保険

（払戻調整金あり）

予定利率1.25%

0.25%（前年度：0.15%）

拠出型企業年金保険

（払戻調整金なし）

### ○大同生命

#### ①個人保険・個人年金保険

- ・前年度配当率を据え置きます。

ただし、一部の一時払商品は、利差配当率の増減配を行います。

#### ②団体保険

- ・前年度配当率を据え置きます。

#### ③団体年金保険

- ・利差配当を0とします。